2024.10.29

大阪女学院中学校・高等学校 2023 年度学校関係者評価

学校関係者評価委員会

日時：　2024 年 10 月 28 日(月）午後 3 時～4 時 30 分

場所：　大阪女学院中学校・高等学校　北校舎　応接 B

学校関係者評価委員

ヘール会（PTA）会長：大山　明

ヘール会（PTA）副会長：関　千昌

ヘール会（PTA）副会長：桑野香野（欠席）

同窓会会長：児島若菜

同窓会副会長：崔　裕子

学識経験者：有澤慎一（日本基督教団池田五月山教会牧師）

陪席

校長：山﨑哲嗣

副校長：関口　淳

高等学校教頭：谷本　力

中学校教頭：平松秀元

議事進行

１　議長選出

合議により有澤慎一氏を議長に選出

２　議事

冒頭、学校長より、事業計画と実施概略について説明し、その後「大阪女学院中学校・高等学校　2023 年度自己評価」をもとに各事業項目について質疑応答・意見交換を実施。議事内容は以下の通り。

議事記録

自己評価【概況】について

A　キャンパスの開放、内外のコミュニケーションの回復を試行錯誤

質問：　近隣私立男子校と共同開催した TED TALK とは何か。
→プレゼンテーションとディスカッションを組み合わせた形態の英語の討論会を言う。これを本校高校生徒と私立明星高等学校の生徒がともに企画して実施した。双方の学校から弁論者・質問者が多数出て、活況であった。

質問：　キャンパスを解放した「マルシェ」とはどのようなことを行なったか。
→６つくらいの地域団体や商店が、キャンパス内において移動型のブースで展開し、地域の方をお招きして、接点と交流の場の設定を図った。加えて、本校生徒の男性保護者の会も出店ブースを展開して、無料の飲み物を提供した。本会には、本学院中学校受験志望の小学生やその保護者も多数参加してくださり、男性保護者の会と交流していただくことで、学校の価値を共有していただくことに資した。

意見：　キャンパスを開放することは、学校の存在意義を広く地域に知っていただく上で、大変重要である。学校を見ていただくのはとても良いことで、オープンにしてより多くの地域住民と交流を深めることを促進してほしい。ヘールチャペルは、コンサートや講演会などに適した施設であり、これまで外部団体に開放し、例えばゴスペルの会などを開催していることを承知しているが、そこに参加した人が、大阪女学院の立地や環境を大変評価してくださっているということもあった。大阪の中心部にありながら緑が多い環境は、昨今の都会の学校には珍しい。大きなグラウンドにスタンド、プールなどの大規模体育施設も充実しているし、何より正門を入ったらまばゆい緑というインパクトが大変大きい。これらの資源を、できるだけ地域の人たちに開放し、良さを知っていただいて上で、活用していただきたい。

B　社会・環境変化への対応

質問：　少子化の進行が募集に与える影響をどのように捉えて活動しているか。
→少子化は深刻であるが、大阪女学院の近隣の人口については増加傾向にあり、近隣からの通学者が増えている。加えて、少子化と反比例するように、中学受験をして私立中学校への入学を志願する人の率（受験率）は、少しずつ上がっている。長期的には学校の規模のダウンサイジングを計画しなければならないが、現況においては、募集は微増で推移するのではないかと分析している。

C　2023 年度の推移

質問：　2025 年度のカリキュラム・フレームの変更はどのようなものか。
→生徒全員が履修する正規の授業を月曜日から金曜日の 5 日間に設定し、土曜日は、生徒の選択で参加できる、探究・体験・学びの日とする。どのような活動や学びをしたいか、生徒・保護者に調査し、それに応じた体験ができるプログラムや学べる講座を用意する。講師には、同窓生や本校保護者の方々にも依頼するつもりである。自主活動の場ともし、探究的自主活動もポートフォリオを積み上げることで、総合選抜型入試に備えることができるようにする。また、着付けや華道など、単発で参加できるものも、設定する。

意見：　外部でバザーを開催し、その収益金を、日雇い労働者支援の NPO「ホームドア」に寄付したところ、この NPO とその関連会社を起業したのが、本校の卒業生であることを知った。卒業生がこのような活動に自らの知見と能力を捧げ活動できるのは、大阪女学院の教育が基盤にあったからで、そのような卒業生を継続して輩出できるよう、土曜日のプログラムを活用してほしい。

自己評価【2023 年度事業計画の自己評価・課題の改善点】について

A 財政と基本的な資源
内部調査報告に基づき、以下の項目をどのように評価するかについて意見を交換した。

空調
質問：　多くの高校生が空調について問題視していることがわかる。空調の問題とはどのようなものがあるか。
→教室の席によって温度差があるということが一番の課題である。
質問：　サーキュレーターなどは設置していないのか。
設置している。それでも場所によって温度にムラがあるのが現状で改善が十分ではない。空調は課題未解決の問題だと認識している。

トイレ
質問：　多くの高校生がトイレについて問題視していることがわかる。どのような問題があるか。
→施設が古かったので問題があったが、2024 年夏の時点で、高等学校のホームルームがあるすべての校舎のトイレの改修が完了し、最新の設備を備えた。問題は解消できたと考えている。

B 組織内要因生徒支援

質問：　生徒支援を課題だと考えている生徒が比較的多いことについてはどう考えるか。
→登校が困難になる生徒、あるいは不登校生徒は、本校の対応が不十分であるとの評価が多いと承知している。経験豊富な教員が退職することで、建学の精神やキリスト教教育の重要性の継承が困難になり、困窮生徒へのケアの目標を十分達成できなかったと分析している。しかしクリスチャンの新任教員も安定的に確保できているので、継承が順調に進めば、目標達成は可能であると考えている。

質問：　生活習慣、ルールを生徒・保護者の９割が守れているとする一方、教職員の評価は低いのはどういうことか。
→生徒は緩やかなルールを緩やかに理解している、それを見る教員は、その緩やかな様子を見て、できていないと評価してしまうからであろう。服装や生活態度についてのルールは、実態として概ね遵守されていると思う。スカート丈の短さには、指導が十分でない部分がある。

質問：　スカートの短い生徒はその都度注意されるか。
→一斉注意の機会が必要だと考えている。ルールを守る意識について、問いかける。

質問：　短いスカート丈は、盗撮などの被害を助長する危険があることも伝えるべきではないか。
→盗撮は、盗撮犯が圧倒的・一方的に悪なのであって、犯罪者に罪を犯させないように自分の服装を変えるような注意は順当な指導の方向性ではないと考える。盗撮の危険性を意識する啓発活動をもっと徹底していきたい。

質問：　大阪女学院の生活指導上のルールを生徒はどのように理解しているのか。
ルールに合理性があるかどうかの観点で言うと本校の生活指導上のルールには理不尽と思われる決まりはない。生徒多数がそれを適切に理解できるような、全体的な討論の場を設置することができると良いと考えている。

C　組織内要因スタッフ支援

質問：　本校教員は忙し過ぎる。何か対策は講じているか。
→休日出勤が入って、連続勤務になる場合があったが、2025 年については、全教員が月曜～金曜の勤務になる。（これまでは、交代で通常の週日に研修日を設定し、休日としていた）研修日の設定がなくなり、全員が土日ことで、時間割変更の可能性が柔軟になるため、半日の代休をとることが可能になるのではないかと推測している。

質問：　以前教員として他校で働いていた時に、毎日午後 11 時に帰る状態であったが、時間外勤務の実態と手当の支給についてはどのような状態か。
2024 年度から、学校長が認めた業務については、時間外手当を支払うようになった。放課後の会議隊は、決議の内容を事前に明示して、会議主催者が勤務時間内に会議を終えることを厳守してもらうように指示している。職員会議についても同様であるが、勤務時間が迫っても終わらない場合は、校長が勤務時間外延長を会議隊に諮って、了承を得られれば時間外勤務とし、会議出席者には時間外勤務手当を支給する。

D　組織外への働き

自己評価【概況】における「A キャンパスの開放、内外のコミュニケーションの回復を試行錯誤」において質疑を尽くしたとして、ここでは質疑なし。

E　総評

質問：　内部評価の調査において、生徒の回答率は高いが、保護者と教員の回答率が低い。どのように捉えるか。
保護者についてはウェブアンケートであるが、本校が保護者に付与している保護者専用アカウントにログインした状態でなければアンケートにアクセスできない仕組みになっている。保護者の中には、使用する端末によっては、アカウントにログインできないか、すぐにログアウトしてしまう設定になっている場合もあり、回答を敬遠しているケースもある。しかしログインのしやすさだけを優先してシステムを構築すると、安全性が脆弱化する。難しい課題だと認識している。